

1. つなぎ発問の必要性

展開前段は、道徳的価値が表れている（隠れている）一つの出来事を扱っていることが多く、展開後段は、その展開前段から道徳的価値を取り出して、その意味やよさを言葉で表そうとします。すると、児童生徒は、その一事例にあてはまる意味やよさから考えることになり、道徳的価値の普遍性が損なわれたり、言葉で表すこと自体が難しかったりすることもあります。つまり、展開後段で考えるための情報（材料、事例）が不足しているのです。展開前段での一事例から、それに関わる見方を広げ、情報を増やそうというのが「つなぎ発問」です。

では、展開前段から、どのような情報を、どのように増やすとよいのか。

そこで、展開後段に進む前に、登場人物の立場を一旦離れて、体験したこと（展開前段）を下記のような視点から省みて、児童生徒自身がもっている実感や価値観のレベルでの見方を加えさせます。このつなぎ発問には、主題になっている道徳的価値を意識した意図が含まれていますので、展開後段の主題発問へのスムーズな接続ができますし、ここで考えたことは、展開後段で道徳的価値について考える際の参考やヒントになります。

2. つなぎ発問の問いの例

つなぎ発問の問いの例として、次のようなものがあります。

「正悪」	（展開前段の）よいこと、悪いことを見つけさせる
「感」	（展開前段で）同感、共感、称賛するところを見つけさせる
「対」	（展開前段の）人物の考え方の変化、複数の人物の考え方を比べさせる
「同」	（展開前段と）同じこと、異なること、類似する経験を想起させる
「策」	（展開前段の）解決策を考えさせる
「変」	（展開前段の）状況が、もっとよくなった・もっと悪くなった場合を考えさせる
	（展開前段の）条件が、厳しくなった・緩くなった場合を考えさせる
「仮」	仮説した条件や状況の場合を考えさせる
「現」	現実、実生活で考えられていること、起こっていることと比べさせる
「異」	（展開前段と）反対のこと、別のこと、裏返しのことと比べさせる
「失」	（展開前段で）なくなるもの、失うもの、足りないものは何かを想起させる

これらの中から選択するポイントは、展開前段の内容と展開後段の問い（主題発問）をつなぐために有効なものはどれかということになります。また、一つだけでなく、複数の問いを組み合わせることもできます。

留意点は、ここでも時間が必要になりますので、展開前段の登場人物の「心を知る学び」を、展開後段で考えるために必要なものに焦点化して学ぶことができるように工夫をします。